

**わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会
第5回式典・会場専門委員会 議事録（概要）**

1 日時

令和4年(2022年)11月9日（水） 10：30～12：00

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7階 7A会議室

3 出欠状況（五十音順、敬称略）

委員 19名中 14名出席

出席： 稲葉 芳子、小川 亮、片山 彰一、小出 進、澤 英幸、武田 英明、豊田 則成、
中島 誠一、中嶋 義基、伏見 強、松宮 智之、村田 耕一、目片 佳子、米田 正博

欠席： 大橋 奈希左、加藤 三男、佐々 康浩、西川 朗、横井 正弘

（事務局：辻事務局長、他事務局職員9名）

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

報告事項

※事務局から「いちご一会とちぎ国体総合開・閉会式」および「いちご一会とちぎ大会開・閉会式」の概要について報告。

【質疑・意見】

<委員>

- ・障スポ大会に陸上競技選手団の引率で参加した。
- ・公式練習も含め大会期間中、すべてが快晴であった。
- ・式典内容について、選手や関係者からの評判は良かった。
- ・障スポ開会式当日は非常に暑かったが、着席での参加だったこともあり、待ち時間を含めても耐えられる時間であった。
- ・IDゲートでは感染症対策等でいろいろなチェックがあったが、障スポ選手団は団体で受付をするため、入退場はスムーズにできた。
- ・開会式は音響が悪く、フィールドではあいさつなどの言葉はよく聞き取れなかった。閉会式のファイナルステージではコンサートが行われたが、ここでは別のスピーカーも配置され、改善されていた。
- ・障スポの閉会式は非常に寒かった。事前に持ち込みできないとのアナウンスがあったが、半分くらいの県の選手は上着を持参して閉会式に参加していた。
- ・選手からは特に苦情はなかったが、控所のテントからスタジアムまでの距離が遠く、役員や団長の中には障害のある方もいたので何度も往復はできないという声があった。障害の程度や内容によっては、かなり厳しい距離であった。障スポ選手団の動線については十分に考える必要がある。
- ・栃木の施設は充実していた。施設周辺各箇所に管理事務所等の建物があり、仮設トイレ以外にも

施設のトイレが利用でき、トイレについては心配することがなかった。

- ・障スポ最終日は閉会式に参加するため、全選手団が各宿舎から主会場に集まってくる。閉会式が始まるまで、滋賀県選手団の半分は陸上競技場のテントに、半分は武道館で待機していた。雨風の心配はなかったが、本県の場合、屋内施設が少ないため、閉会式が始まるまでの待機場所については考える必要がある。
- ・競技の日程や障害の程度等を考慮し、開・閉会式に出ない選手もいたが、選手からは、やはり出たかったという声があった。
- ・また、各競技会会場周辺にはあまり売店がなかったようで、選手は閉会式に参加して、おもてなし広場でお土産を買うことを楽しみにしていた選手もいたようである。

<事務局>

- ・国体から大会の開催時期は季節の変わり目であり、本県でも天候については同様の課題が想定される。選手の負担にならないよう、コンパクトかつ滋賀県の魅力を伝えられる式典にしたい。
- ・栃木県の施設は広く、すべてを滋賀県の参考にすることは難しい。鹿児島、佐賀の施設規模と本県の会場規模は似ているので、次年度以降の視察も参考にしたい。
- ・障スポの選手に最後まで安全に参加していただくゾーニングの検討が必要と考えている。栃木国体・大会の視察を踏まえて慎重に検討するため、今回の中間案には含めていない。

<委員>

- ・今回、栃木国体総合開会式の視察をして、一番課題になったと思ったのは熱中症対策。
- ・式典音楽隊は長時間、日に照らされていた。式典の後半は、倒れる人がいたり、救急車が来たりと大変な状況になっていた。大会を成功させるためには熱中症対策は必須。水分補給のコーナーは少なく、長蛇の列であった。水分補給についても対策が必要。
- ・施設内の各パートに鹿児島県の事務局員が視察をしていた。多方面から用務を視察することが必要。
- ・音楽隊の人数が会場規模に対して少なかつたため、スピーカーで拡大していた。音響による補助が大きく、電氣的な耳障りの悪い音がしていた。栃木県の状況を踏まえて、滋賀県の音楽隊の人数等については今後検討していきたい。

<事務局>

- ・栃木国体の後、彦根の主会場を見に行っただが、彦根も栃木県と日の当たり方が似ている。彦根の主会場は庇が小さい分、影がほとんどできず、フィールドの中は、ほぼ日照りの状態になると思われる。音楽隊の配置場所も含め、今後十分に対策を検討したい。
- ・鹿児島県は次年度開催県ということでいろいろと配慮されているところがある。おもてなし広場では専用ブースが与えられていたし、広場内のステージでは県のPRの時間も用意されていた。佐賀県が開催する時には、本県がそのような立場になると考えている。

<委員>

- ・暑さ対策は十分に必要だが、福井国体のことを考えると、荒天時や雨天時の対応についても考えておく必要がある。
- ・音楽隊については人数が縮小されたとのことであったが、本県においては、びわ湖ホールの声楽アンサンブルにも協力いただければと思う。
- ・式典演技については、内容はすばらしかったが、時間が長く、ストーリー性のある構成であったため、ずっと見ていないと内容がよくわからないところもあった。時間を短くし、インパクトのある構成にした方が参加者の心に残るのではないかと思った。

- ・観覧席は問題なかったが、フィールド内は音響が悪く、話し言葉はよく聞き取れなかった。
- ・式典に関することではないが、視察員の受け入れについては開催県と十分に確認をし、確実に調整できるよう配慮いただきたい。

<事務局>

- ・どのような天候であっても対応できるよう十分に対策を講じていきたい。
- ・音楽隊の編成については、びわ湖ホール声楽アンサンブルの参画の件もふまえ、今後、音楽部会を中心に検討していく。
- ・式典演技の内容については、スポーツの大会なので、もう少し躍動的な構成でもよいのではないかと考えている。今後、十分検討していきたい。
- ・音響については会場の設営業者の事後検証も参考にしてみたい。
- ・視察員の受け入れが確実にいえるよう、相互確認できるような視察員登録の仕組みが必要であると考えている。

審議事項

※事務局から「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ式典基本計画（中間案）」について説明。

→原案どおり承認

<委員>※音楽部会部会長より第1回式典音楽部会の報告

- ・式典音楽隊の構想、使用曲の構想については式典基本計画（中間案）のとおり承認された。
- ・栃木国体、彦根主会場の視察を踏まえ、音楽隊編成の人数については、先催県の例を踏まえ、吹奏楽隊、合唱隊ともに150人程度の編成を想定しているところ。
- ・音楽隊編成の人数については、仮設施設の設置、レイアウト、経費等、総合的な検証が必要となる場所であり、今後検討を進め、結果は改めて報告する。

【質疑・意見】

<委員>

- ・栃木国体後に、彦根の主会場を見学した。栃木県の会場と比較してコンパクトではあるが、とても良い会場である。音の響きが良く、本番には良い音楽を奏でられるという所感。
- ・吹奏楽隊150人、合唱隊150人で、音響を補助的に用いれば、良い式典音楽ができるのではないかなと思う。
- ・本県の主会場も、バックスタンド側は西日が直接当たるため、熱中症対策が必要。
- ・びわ湖ホールの声楽アンサンブルは滋賀県の財産であり、有効に活用したいと考えている。
- ・これまで吹奏楽のみだったファンファーレに、声楽アンサンブルの声を加えたら、今までにないものができるのではないかと考え、栃木国体に携わった知人の作曲家に相談したところ、素晴らしいとの反応があり、手ごたえを感じている。
- ・栃木国体の総合開会式を視察していたところ、合唱隊、吹奏楽隊ともに次々と体調不良者が出ている状況だった。栃木県でも十分に対策は講じられていたが、極力、短時間に終わられるような工夫が必要だと思う。
- ・滋賀県の入場行進では、極力コンパクトな入場方法を考えられたらと思う。例えば、オリンピックのリレーチームの入場のように、入場箇所を2カ所程設け、ポーズ、駆け足で入っていくというような入場スタイルも面白いのではないかな。

<事務局>

- ・熱中症対策は改めて対策を講じる必要があると感じている。

- ・ファンファーレの案を聞かせていただき、我々も非常に楽しみである。ぜひ、音楽部会でも十分御議論いただきたいと思う。
- ・時間を短く、なるべくコンパクトにすることは我々の式典における基本コンセプトだと考えている。委員の皆様の御意見をいただきながら考えていきたい。

以上